

(第三種郵便物認可)

2006年(平成18年)10月12日(木曜日)

言

堂



下関出身 人形作家・日高さん

上京から30年 故郷で初個展

下関市彦島出身の人形作家、日高朋子さん(48)(茨城県日立市)が12日から、同市の長府庭園で初の個展を開く。大学進学で上京して30年。時計メーカーのイメージキャラクターを手がけるまでに成長した姿を、母や古里に紹介する。

幼少時代、近所の彫刻 下関西高から慶応大へ。し、2児の母となったが、家、中村辰治さんの作業 「作ることへのあこがれ」 夜中の時間を使って粘土を場に遊びによく出かけた。はとどまらず、アパートでこね続けた。34歳からは淡父に連れられ月一回、下紙粘土の花や人形を作っ 城大の聴講生。3年間通い、関大丸のギャラリーにも通 た。東京で化粧品会社に就 裸体女性のブロンズ像を繰った。職。26歳で日立市に引っ越り返し作った。

きょうから 長府庭園に34点出品

た。

これまでに女性像約40点を制作。2003年にはうち1点が、時計メーカー「スウォッチグループ・ジャパン」(東京)のイメージキャラクターに採用され、新作時計の展示会場などに飾られた。

友人らとの共同作品展も関東を中心に約30回開催。

今年1月の水戸会場も大盛況で、うれしくなって実家の母(84)に電話すると、「私も一度(作品を)見てみたい」。足も弱り、関東になかなか出て来られない母。

「今やらなければ」と古里での開催を決めた。

今回は木芯桐塑人形を中心に34点を出品。「作品の原点は下関。女性のスカートは関門海峡の風にはためき、作品には潮の香りを感じさせる雰囲気を目指してきた。30年ぶりに戻ってもりで削って和紙をまき、絵の具で着色する。「主婦の私でも気軽にでき、ひび割れもない」優れた技法だった。

41歳の時、「木芯桐塑人形」に出会った。

日高さんの木芯桐塑人形は桐の木で骨組みを作り、削りかすのおがくずとのりを混ぜた素材で肉付け。3〜4週間乾燥させ、紙ヤスリで削って和紙をまき、絵の具で着色する。「主婦の私でも気軽にでき、ひび割れもない」優れた技法だった。

17日まで。入場無料。期間中は日高さんも毎日来場。11月14〜20日は旧英国領事館でも開く。

17日まで。入場無料。期間中は日高さんも毎日来場。11月14〜20日は旧英国領事館でも開く。